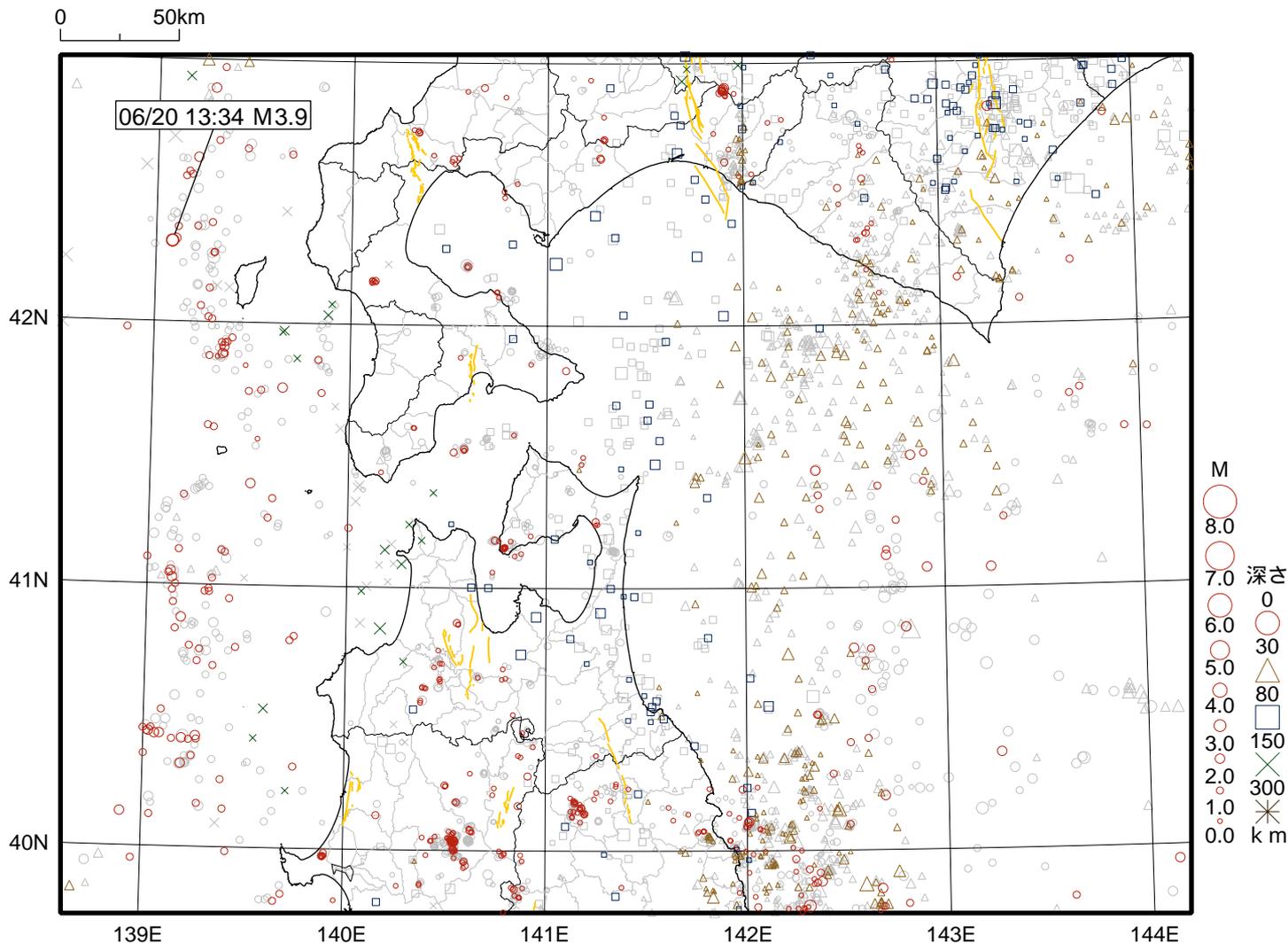


# 渡島・檜山地方の地震活動図

2020年6月1日～2020年6月30日

震央分布図

函館地方気象台



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを、図中橙色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。

2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

## 地震概況（2020年6月）

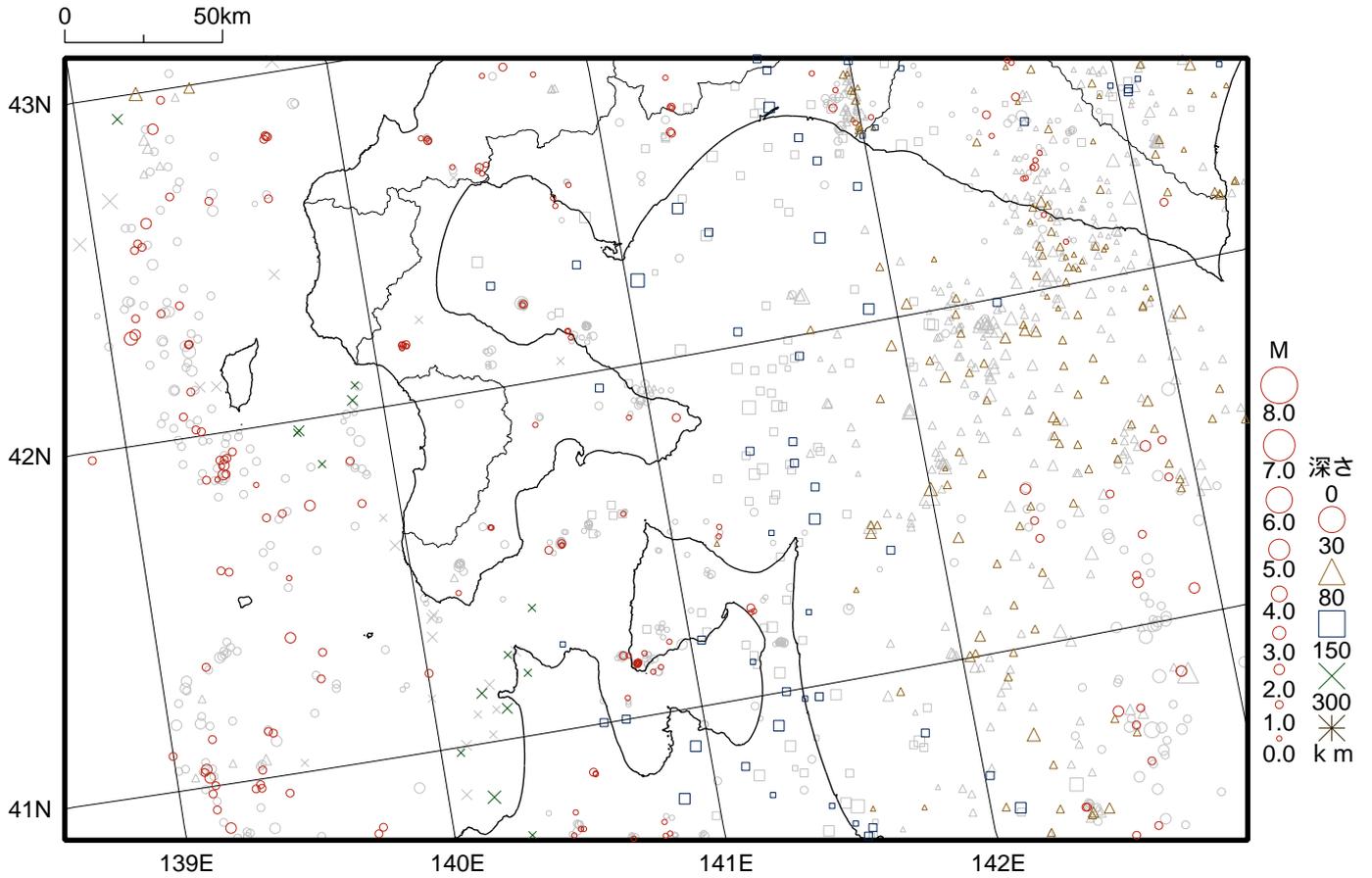
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回（5月は4回）でした（詳細は「震度1以上を観測した地震の表」参照）。

20日13時34分、北海道南西沖の地震（M3.9、深さ19km）により、八雲町、長万部町で震度1を観測しました。

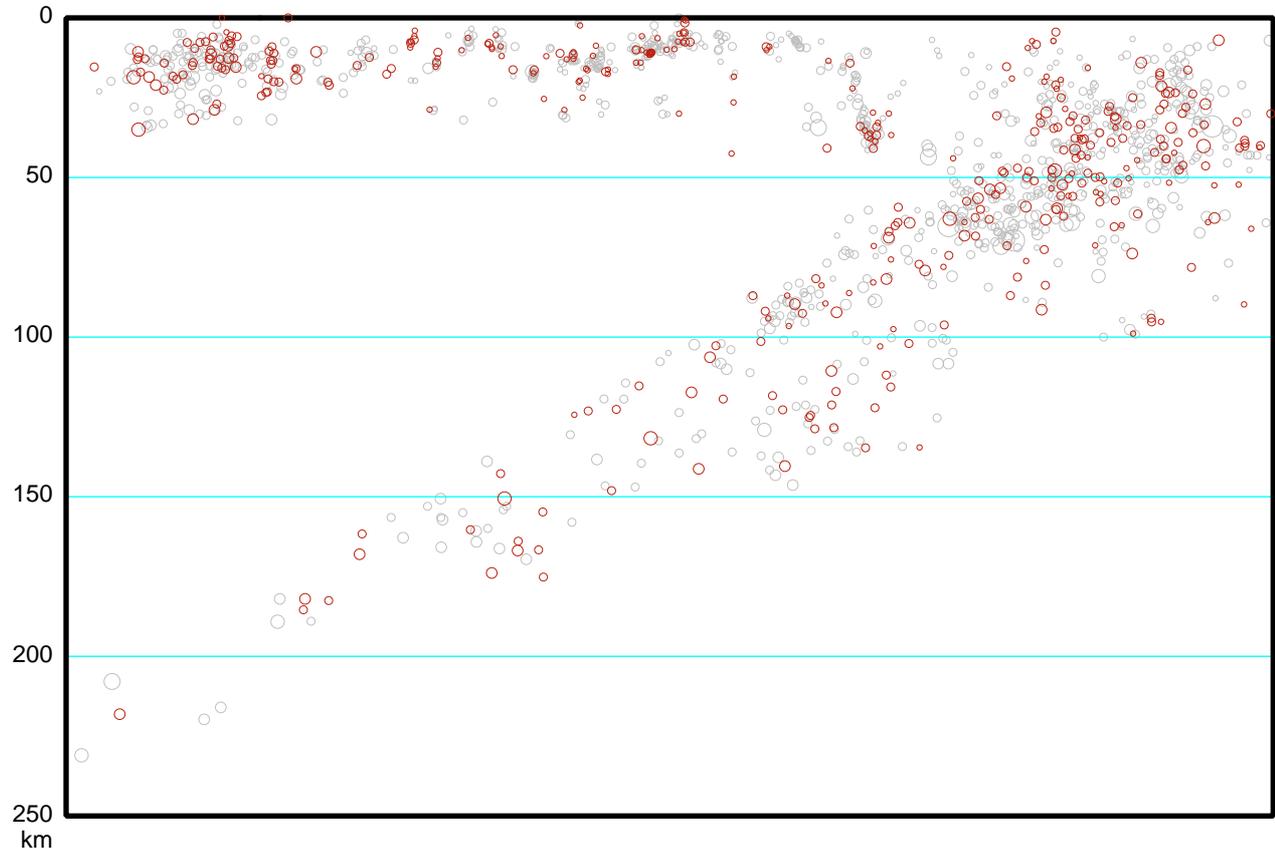
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。  
ホームページのアドレスは、「<https://www.jma-net.go.jp/hakodate-c/>」です。

2020年6月1日 ~ 2020年6月30日

震央分布図



断面図



これは暫定値であり、データは後日変更することがあります。

記号Mはマグニチュードを表します。

過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月(今期間を含まない)の震央を灰色のシンボルで表します。

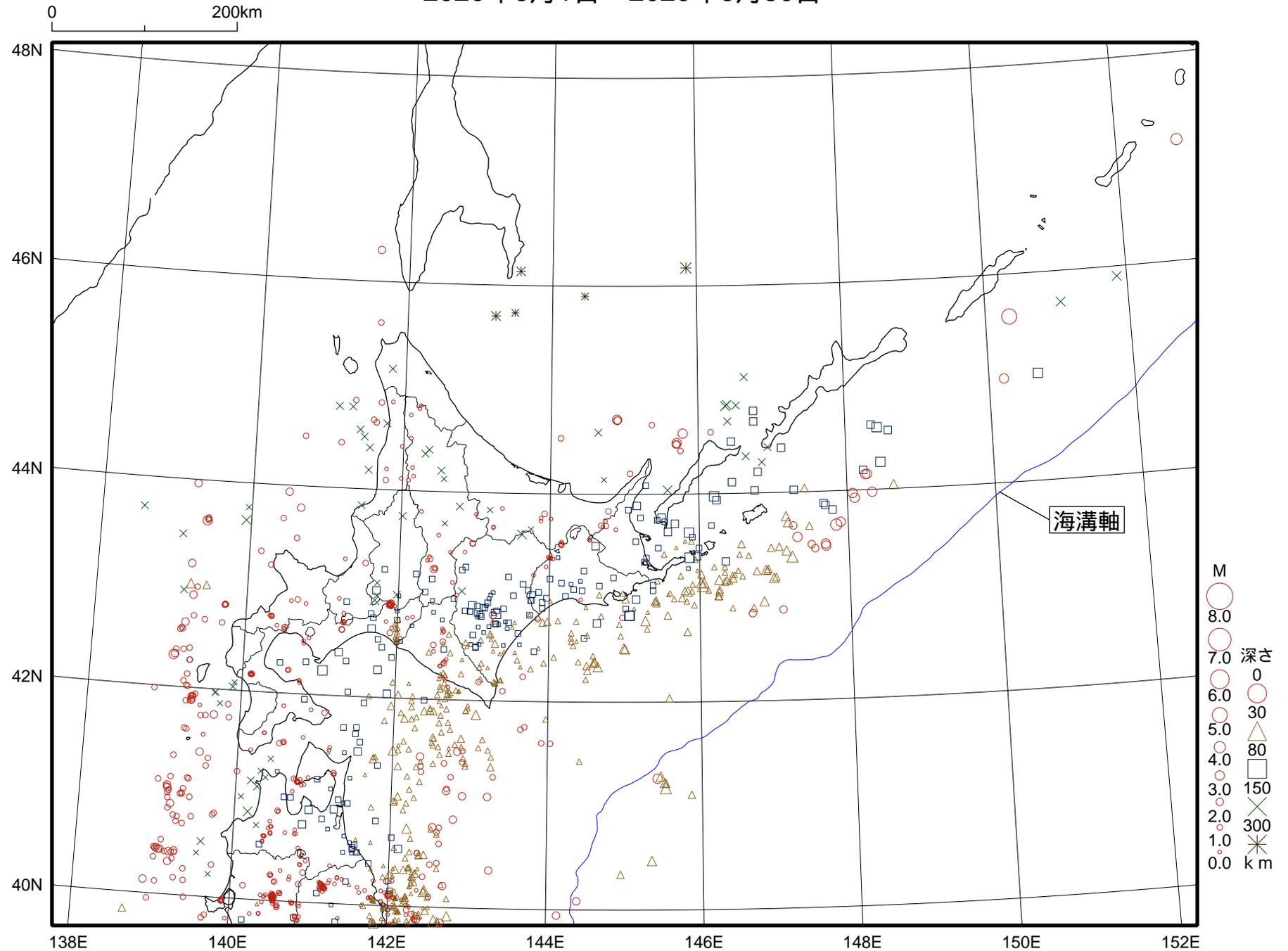
2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

# 北海道の地震活動図

2020年6月1日 ~ 2020年6月30日

札幌管区気象台

震央分布図



2020年4月18日から、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震の震源決定数の変化がみられることがあります。

## 震度 1 以上を観測した地震の表 (2020年6月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2020年 6月20日 渡島地方	13時34分 震度 1	北海道南西沖 八雲町熊石雲石町* (06)	42° 18.4 N	139° 04.9 E	19 km	M3.9
		長万部町平里* (05)				

各地の震度は、渡島・檜山地方のみを掲載しています。

\* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

地震概況ではセントロイドの深さで表現した地震が含まれている場合があります。

震源の緯度、経度、深さ、規模は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度(計測震度)の小数点を省略して表しています。

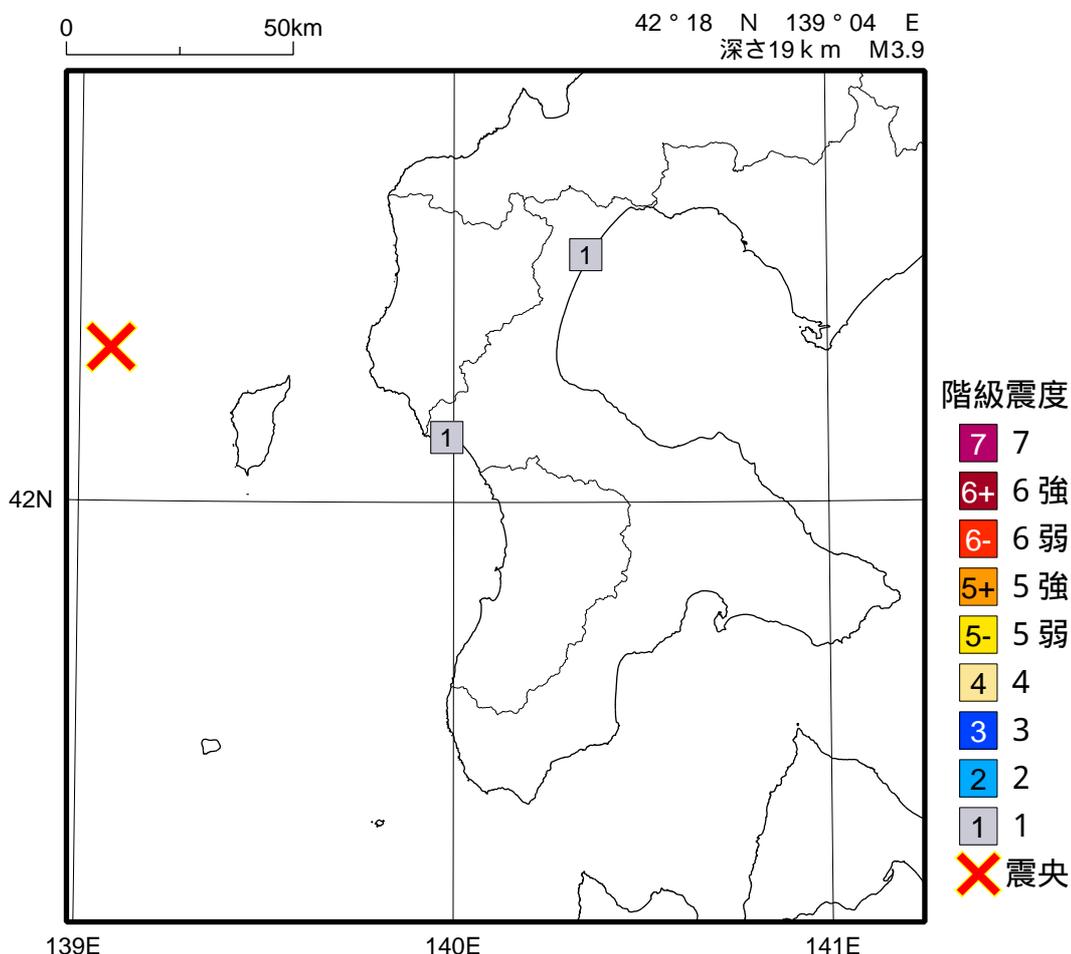
計測震度と震度階級の対応は下表のとおりになっています。

### 計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

### 2020年 6月20日13時34分 北海道南西沖の地震の震度分布図

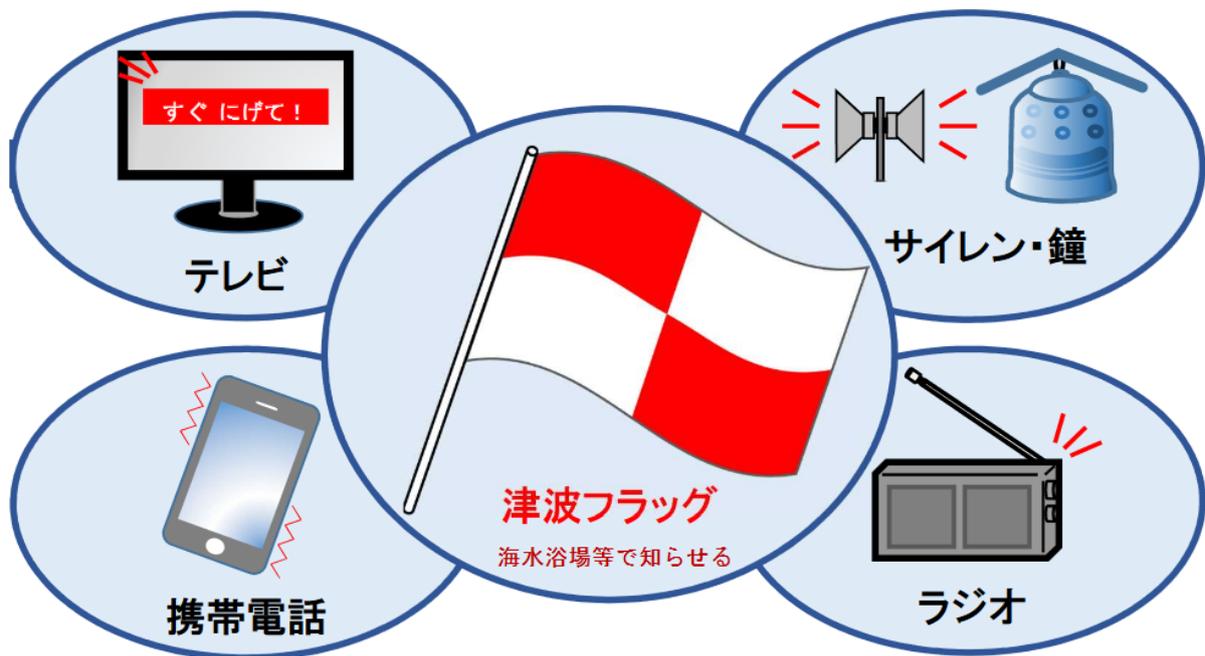


## 【防災メモ】

### ～「津波フラッグ」による津波警報等の視覚的伝達～

津波警報等（大津波警報・津波警報・津波注意報）は、テレビやラジオ、サイレン・鐘、携帯電話等、様々な手段で伝達されますが、令和2年夏から「津波フラッグ」による伝達方法が加わります。

「津波フラッグ」は、聴覚障害がある方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表を視覚的にお知らせするものです。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難してください。



#### ●津波フラッグのデザイン

津波フラッグは、視認性や色覚の多様性を重視した上で外国人へも配慮し、海からの緊急避難を知らせる意味で海外でも用いられている「赤と白の格子模様」の旗とすることに決まりました。この旗は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです。

（国際信号旗は、単体ではアルファベットや数字などに対応しており、組み合わせで様々な意味になります。）

#### ●利用上の注意点

- 津波フラッグが用いられる場所は、海水浴客やマリンスポーツ・海釣りなどを行う人がいる海水浴場等の海岸です。
- 掲示の方法は、砂浜や海水浴場の監視台等において監視員が振る、監視台や海岸沿いの施設に掲示するなど、その地域の実情に合った方法が用いられます。
- 法律による使用の義務付けは無く、実施場所や実施期間は地域によって異なります。